

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 「対話の日」が一巡します

市長就任 1 期目の 7 月から取り組んだ「対話の日」が、この 10 月で市内を一巡します。第 1 回目は埴生・福田の公会堂でした。なぜか政治活動団体の街宣車が出動し、ボリュームをいっばいに上げて妨害するため、やむなく警察に協力を求めたのが、つい昨日のこのように思い出されます。その後、多くの市民や自治会長のご協力のもと、343 ある自治会のみなさん方と、どこかの公民館、福祉会館、公会堂、集会所等でお会いし、膝を交えて、市の全体からその地域特有の問題まで、大小様々な課題について「対話」を続けてきました。まだ課題として残されたものもありますが、何とか解決した数多くの要望事項もありました。対面しての多くの苦情や要望をお聞きするのですから、財政事情の特に厳しかった時期は何を出されても即座の実行が難しく、気持ちの上でつらい時期もありましたが、「逃げたら市長は務まらない。」この言葉を心に繰り返しながら、何とか一巡するところまで漕ぎつけました。お陰さまで、みなさんとの意思の疎通を多少とも図ることができたことを嬉しく思っています。

■ コンプライアンス(法令遵守)について

全国には約 800 の市がありますが、市長の前職は様々です。その中に、現役の弁護士市長が 13 人います。前回の全国市長会（於東京、6 月）に合わせて、その 13 市長の初顔合わせがありました。呼びかけ人の明石市の市長によると、この春、明石市（人口約 30 万人）では、弁護士の有資格者を市の職員として 5 名採用

し、秋にも 2 名追加を考えているとか。平均年齢は 30 歳前後ですが、全員、課長待遇だそうです。複雑化した市民への適切な対応、公共工事等外部発注の更なる適正化、談合の排除、パワハラ・セクハラ撲滅、人事の公正、職員配置の適正など、彼らの協力を得て、市政全般にわたり徹底したコンプライアンス（法令遵守）を実現したいとのこと。どこの市も似たような課題を抱えていて、それなりの対応で何とか凌いでいるのが実情のようです。こういう時代が来たのかと、他市の市長さん方、目を見張ったようでした。ちなみに明石市の市長は、もと衆議院議員です。

■ ご指摘、ありがとうございました

本市には、視覚障がい者のため読み聞かせをしてくれるボランティアのグループがあり、地道な活動を続けています。視覚障がいのため字の読めない人が相手ですから、言葉の正確さには特に留意されているようです。

そのグループから、7 月 1 日号のこの欄で、今年の秋の市民まつりについて。私が、「何といても、パレードは「祭の華」です。…きつといろんな嗜好が凝らされることでしょう。」と書いたことについて、「嗜好」ではなく「趣向」ではないかとのご指摘をいただきました。文章を読み直してみると、ごもっともで、「嗜好」は間違っていました。ご指摘、ありがとうございました。

対話の日

7 月 26 日(木) 19:00 ~
有帆公民館